

# ふーぬ風

発行 〒901-1115  
 沖縄県南部農業改良普及センター  
 TEL: (098) 889-3515  
 FAX: (098) 835-6010

## 懐かしくて新しい島ヤサイ ぐしちゃんいい菜® (カンダバー) の紹介

### 「ぐしちゃんいい菜」とは？

近年、八重瀬町で「ぐしちゃんいい菜」という夏野菜が生産されています。その正体はカンダバー。沖縄県では昔からジューシーの具材として馴染み深い甘藷かんしょの茎葉けいようのことです。「ぐしちゃんいい菜」が市場や加工原料として注目されている理由や生産者のこだわり、今後の展開を紹介します。

### 新しい系統「沖育01-1-7」



「ぐしちゃんいい菜」は沖縄県農業研究センターで育成された「沖育01-1-7」という新しい系統です。これまでのカンダバーと比べエグ味が少なく、葉柄も食べられるのが特徴です。

### 商標がブランドとなる時代

「ぐしちゃんいい菜」は、「ぐしちゃんいい菜生産組合」の組合員が出荷の際に用いている商標です。従来のカンダバーとは異なる新品種の魅力が消費者に伝わるように「沖育01-1-7」の数字をもじって“いい菜”、地域名も入れたいと希望があり、商標は「ぐしちゃんいい菜」で登録しました。今では「ぐしちゃんいい菜」という商標が市場、学校給食、加工業者等の取引先から信頼を得るブランドとなっています。

### 安心を届けるブランドを目指して

「ぐしちゃんいい菜生産組合」では、平成24年度から環境にやさしい農業を目指して様々な取り組みを実施しています。平成24年度はトンネル栽培を行う際に用いる被覆資材（ネット）の種類を検討し農薬使用回数の低減を図り、平成25年度は緩効性肥料の使用等により化学肥料（化学合成由来の窒素量）の施用を減らす計画を立てています。これらの取り組みを通じ、消費者に安心を届けるブランドを目指しています。

### ●カンダバーを使ったレシピ (カンダバーもち)



- ①カンダバー（葉と葉柄：50g）を水洗いし、熱湯で1分ゆがく。
- ②①に水（80cc）を加え、ミキサーで粉碎する。
- ③ボールに、もち粉（150g）と②を加え均一になるまで練る（耳たぶ程度の柔らかさに調整）。
- ④生地を5等分し、平たく円形に伸ばし、こしあん（10g程度/ヶ）を包み、形を整える。
- ⑤④の下にクッキングシートを敷き、蒸し器に入れ、7～10分中火で蒸す（火が強過ぎると形が崩れる）。

# キクの白さび病発生に注意！！

低温時の降雨が多いこの時期、キクの白さび病の発生が多く見られます。これからの時期、キク栽培において、白さび病は注意が必要な病気です。そこで白さび病の特徴と防除方法のポイントを紹介します。

## 1.白さび病とは

### ●病原菌の特徴

病原菌はプクシニア ホリアナ (*Puccinia horiana*) という担子菌類に属す糸状菌(カビ)の一種です。この菌はキクの葉の組織内や病斑内、あるいは冬至芽の組織内で越冬し、これから担子胞子が飛散して第1次伝染します。

### ●発病条件

発生適温は15~23℃で、沖縄県では11~5月がこの時期にあたります。また冬胞子は降雨時や結露時の湿度が90%以上の時発生が著しく、2~3時間で担子胞子が形成され、風雨等で飛散します。

### ●白さび病の症状

病斑は初め葉の裏に直径1mm程度の乳白色の小斑を生じ、黄色味を帯びながら2~3mmになり、肌色~淡褐色、イボ状の隆起が生じます。この隆起物は病原菌の冬胞子が集まった物で、それが破裂すると担子胞子が飛び出し、飛散感染します。



↑ 葉表

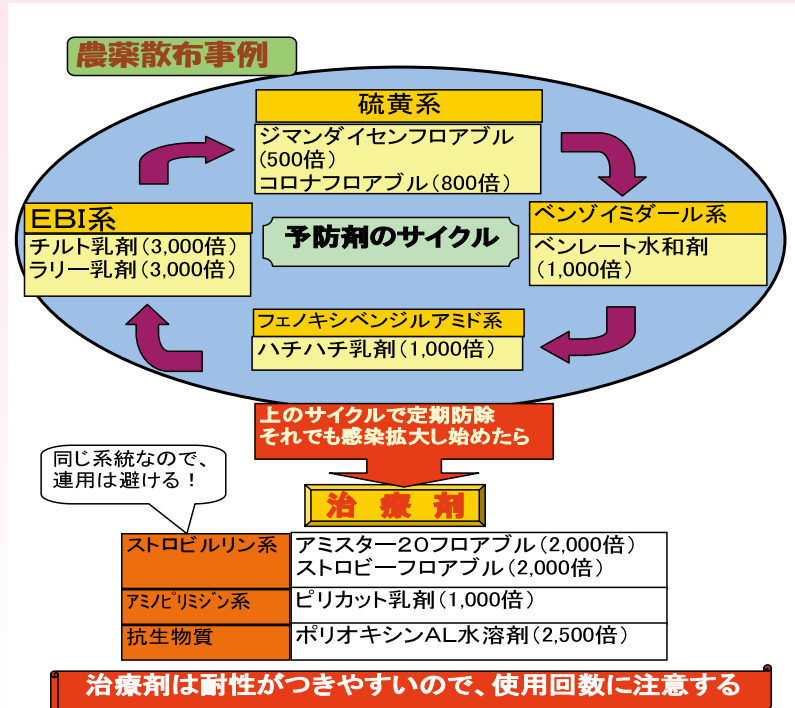


↑ 葉裏の白さび症状

## 2.防除のポイント

- ① 育苗段階から徹底防除し、本畑に菌を持ち込まない！
- ② 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ③ ほ場で発病をみつけたら、速やかに発病葉を除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出す。
- ④ 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないよう農薬のローテーション散布を行う。

(農薬散布事例表参照)



# カボチャの反収向上に向けて

今期のカボチャは例年に比べ天候にも恵まれ、順調に成長しているほ場が多く見られます。1月から、1番果が肥大期を迎えているところですが、草勢が良ければ2番果まで収穫して反収向上を目指しましょう。

## 1. 2番果交配時期

1番果の交配を行って45日目頃が目安です。着果肥大が終了して登熟に向かう頃側枝も動き出すので、側枝か主枝の雌花に交配しましょう。



## 2. 花粉対策

2番果の交配時期には、雄花の発生が少なくなってきました。後植えのほ場があればそこから花粉の確保が出来ますが、無い場合は、花粉交配用品種の交配をえびすの2番果の交配が落ち着くまで行わないようにしましょう（交配すると、雄花の発生が少なくなるため）。



↑ 翌日開花予定の雄花

## 3. 交配のポイント ～優良事例より～

2番果以降の交配は着果位置が株ごとに異なるため、交配作業は手間と時間がかかります。前日に翌日開花予定の雄花を採取して、水に挿して発泡スチロール等の保温箱で管理し、交配当日に雄花の葯だけを瓶に入れて筆で交配すれば、当日雄花を探す事なく、効率的に交配作業に移れます（交配は、朝9:00までに行うと着果率が高まります）。

## 4. 樹勢維持

- **季節風対策**：畑周囲に防風垣設置、大型トンネルであればビニールを2月後半まで残しておきましょう。
- **施肥**：2番果が見込めそうな時、1番果収穫前後に施肥しましょう（10aあたり窒素4kg）。
- **葉面散布**：日照が少ない又は低温時期には肥料の吸収が悪くなるのでアミノ酸入りの葉面散布が効果的です。散布時期は光合成が盛んな午前中に葉裏にかかるように散布します。着果期間中は、カリウム（K）とりん酸（P）が特に必要となるので、補いましょう。
- **かん水**：果実肥大期（交配して約30日間）はカボチャの生育ステージの中で最も水を必要とします。この時のかん水が着果肥大に影響するので、かん水を行きましょう。  
※かん水チューブを利用する場合は、着果位置付近に設置します。



# さとうきび春植え ポイント！

南部地区では、1月13日から製糖が始まりました。ここでは、これから迎える「春植え」のポイントをご紹介します。

発芽を良くし、初期生育を確保することが増収への大きな一歩です。発芽が揃った畑には自然と足が向かいます。今一度、春植えのポイントを確認し、実践していきましょう！

### ① 苗質が発芽を左右！

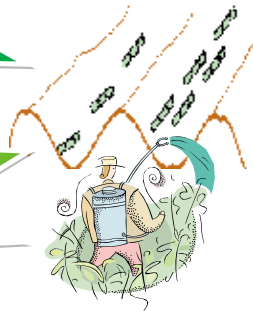
- 採苗・調苗の徹底

### ② 植え溝施用で効果増！

- 肥料
- メイチュウ粒剤

### ③ 植え付け後は！

- かん水
- 土壌処理用除草剤



春植えの時期	基準苗数 (二節苗)
1月～3月	2,400本/10a

※ 苗数は、苗質に応じて2～3割程度増

今期は台風の影響で苗不足が予想されます。梢頭部をはじめ、自家苗を確保しましょう！

### ① 採苗・調苗

- 良い苗を採り、以下のような苗は用いない。
  - ・芽が硬化又はつぶれた苗
  - ・芽が伸びた苗
  - ・メイチュウ害等の見られる苗



### ② 施肥・防除

- 基肥として、植え溝にきび肥料2～3袋(300坪当たり)を施肥。
- メイチュウ類防除の粒剤を施用。(ワジロK、7・バンテジSなど)



### ③ 植え付け

- 植え溝の深さは20～30cm、覆土は3～5cm
- 覆土後、苗と土が密着するよう適度にてん庄
- 植え付け後は、必要に応じ、かん水を行う
- 植え付け後は、土壌処理用除草剤を散布

(地域特産振興班：長元司)

# 農産物や加工品の魅せ方と売り方を考えよう

自分の商品（農産物や加工品）を売り込みたい時、あなたはどんな風に商談していますか？

これまで作ったことのない新商品を作り始めるときに、どんな計画を立てていますか？

たとえ口べたでも、時間が無くても、もしかしたら会うことさえできなくても、その商品の良さや思い、商品に潜んでいる物語をきちんと伝えるために、「商品仕様書」を作りましょう。

## 商品仕様書の作成例

商品名③

メロンキング (〇〇メロン)



主なターゲットとニーズ①

主婦、子供のいる世帯向け

アイデア①④

- ・子供が喜ぶ王冠クラフト付き
- ・端午の節句、誕生日のデザート、子供のいる世帯への手土産に

特徴②⑤

- ・メロン産地だから出来る安定した価格と出荷、糖度△%保障。
- ・冷蔵庫に保管し易い中玉サイズ
- ・有機肥料を使用し、安心・安全を目指すエコファーマーが生産。

商品の規格や取引内容⑤

## ～ 商品仕様書の作成方法 ～

### ① 「ターゲット」と「シチュエーション」を決める。

買う人の年齢・性別・家族構成。どこで買い、どんな場面で食べるのか。自家消費・贈答品、誰の何の為に買われる商品なのか。

### ② 「原材料（農産物）」と「方針（栽培・製造方法）」を決める。

どんな自然環境・歴史のある風土で作られ、どんな生活を送っている農家が、どんな思いと工夫で生産しているのか、どんな特徴（栄養・色・形・大きさ・食感・食べ方等）があるのか。

### ③ 「キャッチフレーズ」を決める

できるだけ短く、一言で商品の物語がイメージできる言葉。

### ④ どんな満足を提供できるのか「提案」する

ターゲットを満足させるためにどんな工夫をしているか。

### ⑤ 「パッケージ」や「表示」「取引内容」を明確に

商品の規格サイズ、写真、バーコード、包装資材や箱のサイズ、法的に必要な一括ラベル表示、アレルギー表示、営業許可や資格受注可能量、小売りと卸価格、栽培・防除・製造工程の記録など。

(地域特産振興班：儀間宏美)

# ヘチマ・カボチャの共存する産地を目指して

## ～地域農業振興総合指導事業・南風原町山川地域の取組み～

### 1. 事業概要

普及センターでは平成22～24年度の3年間、南風原町山川集落を対象に、地域の農業に関する課題を解決し豊かな地域社会づくりを推進する目的で地域農業振興総合指導事業を実施しています。

初めの2年間は平成16年度に拠点産地に認定されたカボチャの「反収向上と品質安定」を課題として取り上げ、取り組みました。そして事業最終年度の今年度は山川地域が県内一の生産量を誇るヘチマの「安定生産」を目的に産地育成に取り組んでいます。



事業推進会議の様子

### 2. 事業の取組内容

- ①課題解決のため事業推進会議・総合指導チーム会議の実施
- ②技術実証展示ほの設置（カボチャ4件、ヘチマ2件）
- ③カボチャ・ヘチマ栽培講習会の開催
- ④関係機関での定期栽培巡回指導
- ⑤山川農業だよりの発刊（→右参照、年3回発刊）
- ⑥優良先進地域への視察・研修会の実施（集落リーダー研修会）
- ⑦アンケート調査による地域の現状把握
- ⑧アンケートの結果を基にした山川地域の10年後の農業目標「山川集落ビジョン」の作成



### 3. 事業の成果

3年間の事業を通じてカボチャ・ヘチマの安定生産の取組みが普及しました。

カボチャについては、①防風垣の設置(H22年13戸⇒H24年21戸)や②低温期・雨天時の着果安定対策(H22年8戸⇒H24年20戸)、③防風効果の高い2m間口トンネルの設置(H22年2戸⇒H24年6戸)などが増加しました。

ヘチマについては台風対策を実施する農家戸数が増加しました（H22年2戸⇒H24年6戸）。

また、カボチャ及びヘチマの共存する産地を目指して「生産技術」「担い手育成」「生産基盤」「生産組織」「流通・販売」の5つの課題別に10年後の目標として「山川集落ビジョン」が策定されました。



ヘチマの台風対策(ネットのベタ掛け)



コップを利用した降雨時の着果安定対策



カボチャの防風垣（防風ネット）

### 4. 今後の取組みについて

今年度で山川集落での取組みは終了予定でしたが集落ビジョンの作成を通じて未解決な課題が多く見つかった事や地域からの要望もあり、新たに3年間の継続実施が決まりました。

# 平成26年1月から 記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されます

所得税の確定申告を行っていない農家の方、記帳・帳簿等の保存を行っていない白色申告の農家の方も平成26年1月から記帳・帳簿等の保存制度の対象者となります。

## 平成26年1月からの記帳・帳簿等保存制度

### ●対象となる方

事業所得、不動産所得又は山林所得を生ずべき業務を行う全ての方です。

※所得税の申告の必要がない方も、記帳・帳簿等の保存制度の対象となります。

### ●記帳する内容

売上げなどの収入金額、仕入れやその他の必要経費に関する事項を帳簿に記載します。

記帳に当たっては、一つ一つの取引ごとではなく日々の合計金額のみをまとめて記載するなど、簡易な方法で記載してもよいことになっています。

### ●帳簿等の保存

収入金額や必要経費を記載した帳簿のほか、取引に伴って作成した帳簿や受け取った請求書・領収書などの書類を保存する必要があります。

### 【帳簿書類の保存期間】

保存が必要なもの		保存期間
帳簿	収入金額や必要経費を記載した帳簿（法定帳簿）	7年
	業務に関して作成した上記以外の帳簿（任意帳簿）	5年
書類	決算に関して作成した棚卸し表その他書類	5年
	業務に関して作成し、又は受領した請求書、納品書、送り状、領収書などの書類	

※詳細は国税庁ホームページ（<http://www.nta.go.jp>）内で「個人で事業を行っている方の帳簿の記載・記録の保存について」を検索してご覧ください。

当センターでは農業者の農業収入、農業支出、作業日誌が簡単に記録できる冊子「わが家のくらしとぬくもり（わが家の農業記録簿）」を配布中です。必要な方は農業経営担当者までご連絡ください。数に限りがありますので、なくなり次第終了します。ご了承ください。

# 南大東村における村産農産物の活用に向けた活動紹介

## 南大東村地産地消促進協議会の発足と取り組み。

南大東村において消費される野菜類の殆どは島外から船や飛行機で運ばれてきたものです。一方、村内で生産された農産物は、村内の小売店や生活研究会による野菜市などで少量ですが販売されています。

地元の農産物利用の課題として、年間を通じた安定的な生産や加工業との連携、地元の消費者のニーズの把握などが挙げられます。

これらの課題の解決に向けて、平成24年9月26日に南大東村では、南大東村地産地消促進協議会を立ち上げました。会員は、村内で活動する、野菜生産者や小売店、加工業、生活研究会や農業青年クラブで構成されています。協議会の主な活動としては、生産者と消費者の交流、地産地消に取り組む人材育成、地元農産物を用いた加工品の開発促進や高齢者の雇用などを計画しています。



生活研究会の朝市で販売される村産野菜



村内で生産される野菜類



協議会活動の様子

10月31日には、県外より地産地消コーディネーターを招いて「県外の地産地消の取り組みと南大東村の可能性」と題して講演会を行いました。講演会には野菜生産者や加工業者や小売店など多くの参加者がありました。

また、11月5日～9日には、南大東村と親睦の深い長野県伊那市において先進地視察を行い、農産物直売所や農産物加工施設の地元での立ち上げの経緯や活動の経過を調査しました。

参加者からは、「本州と離島という環境の違いはあるが、地元の農産物を利用して地域の活性に繋げたいという気持ちは同じだ。この経験を持ち帰り、南大東で出来ることを考えてみたい。」と前向きな意見が聞かれました。これからの協議会の活動により村内の農産物活用の活性化することが期待されます。



長野県での視察

新規就農者  
紹介コーナー

**がんばれ! NEWファーマー** 一糸満市一  
**酪農のスーパールーキー現る 横井直彦・美鈴さん**

今回は、糸満市で酪農を営んでいる横井直彦さん・美鈴さんを紹介します。

横井夫妻は県外出身で、県内酪農家での研修後、昨年の4月から酪農家として新生活をスタートさせています。就農する以前、直彦さんは酪農の全国組織の沖縄駐在として、県内の酪農家へ経営・飼養管理指導を行っており、酪農全般の知識も豊富です。

沖縄で酪農を始めようと思った理由は、「前職での経験を強みにどこまでできるか挑戦してみたい」という思いからだそうです。

現在の経営規模は36頭で、「乳質にこだわり、牛になるべく無理をさせない長命連産を目標とする飼養管理」を心がけているそうです。

美鈴さんは、沖縄に来て初めて酪農に関わることになり、知らない土地でうまくやれるか不安もあったそうですが、周りの酪農家の助けもあり、とても充実している様子でした。

現在は、日々の仕事で精一杯とのことですが、「将来は地域の子どもたちに酪農を身近に感じてもらえるよう、近くの小学校へ出向いて酪農体験を取り入れてみたい」と話していました。



(地域特産振興班：平 千恵)

農家・技術  
紹介コーナー

～わい性サヤインゲンの長期収穫栽培に取り組む先進農家～  
**JAおきなわ知念支店 蔬菜園芸部会員 仲村幸孝さん**



南城市は県内のサヤインゲン生産をリードする責任産地です。特に知念地区は古くからの産地で、冬春期には、つる性のグリーンワンダー系統を盛んに生産しています。ここ数年、県内のサヤインゲンの生産量は横這い、または微減という傾向にあり、反収増加による生産拡大が望まれています。わい性サヤインゲンの長期収穫栽培では反収3tを目標としており、従来のつる性サヤインゲンの栽培より高反収をあげることが出来ます。

JAおきなわ知念支店蔬菜園芸部会員の仲村幸孝さんは、以前はつる性サヤインゲンを栽培していましたが、昨年からわい性サヤインゲンの長期収穫栽培に取り組み、反収アップに成功しました。また今年度は認定農業者になり、小中学生の体験農業の受入や、長期収穫栽培の視察も積極的に受けるなど、農業生産に真摯に取り組むと同時に、地域農業の発展のためにも尽力されています。今後は規模拡大と法人化を目指す予定です。



(園芸技術普及班：嘉数耕哉)